

第6回 本,書店,図書館にまつわる
エピソード大賞

本部門賞

良い習慣は時空を超える

いずみたに きよこ
泉谷 喜良子さん

私が生まれた昭和 30 年代は貧しかった。クリスマスといっても母が作った人形の服がほんのわずかなお菓子とともに枕元に置いてあったり。それでも嬉しかった。近所に病院の医師一家がいた。なぜか気に入られ広い家に毎日遊びに行った。子供部屋に入った途端びっくりした。そこには見たこともない挿絵のきれいな絵本がぎっしりとならんでいた。時間を忘れるくらい読ませてもらった。一家が引っ越すまで私の読書習慣は続いた。特に好きだったのは人魚姫だった。その絵のすばらしさと最後自ら泡となって朽ちていく。ショックで涙が止まらなかった。学生時代は車輪の下とかあすなろ物語とか読み漁った。結婚して子供ができてからは娘二人に毎晩読み聞かせをした。忘れていても読んでと毎晩催促してくる。その娘も子供ができた。たまたま子守に行った夜、なんと孫たちが娘に読んでと本を何冊も持ってきている。いい習慣は受け継がれていくんだなとつくづく思った。